

関係附属機関等における意見及び市民ワークショップについて

1 子ども議会（令和5年12月27日）における意見

○子ども議員(市内の小学4年生から中学3年生 までの計 25名)自らが、共生社会の実現に向けて話し合いたいテーマを設定し、5つのグループ(「アイヌ」「異文化とマーク」「ジェンダーレス促進」「少子高齢化対策」「バリアフリー」)に分かれ、市に対して多様な提案を実施



○検討経過は次のとおり

| 項目 | 日時 | 内容 |
|-------|------------|----------------------|
| 第1回 | 令和5年10月14日 | ・ユニバーサル推進室から説明、テーマ選定 |
| 第2回 | 11月11日 | ・テーマ関係部局との勉強会、議論 |
| 第3回 | 11月25日 | ・共生社会への理解を深める学び、報告準備 |
| 第4回 | 12月10日 | ・テーマ関係部局との意見交換会、報告準備 |
| 第5回 | 12月26日 | ・リハーサル、報告の最終調整 |
| 市長報告会 | 12月27日 | ・市長報告、振り返り |

○各グループの意見概要は、次のとおり

| | | | |
|--------|---|-------|-------------------|
| グループ① | テーマ：アイヌを守ろう | 子ども議員 | 5名(小学4年生1名・5年生4名) |
| 共生社会とは | 個性を認め合い、差別をしない男女平等な社会 | | |
| 意見概要 | アイヌ文化をPRし、受け継ぐことにより北海道の大切な文化を守ってほしい ・食や衣服、踊りなどに直接触れられるアイヌフェスティバルを大通公園で開催する ・人通りの多い市内中心部で開催することで、市民や観光客に知ってもらい、全国的に知名度を上げる | | |

| | | | |
|--------|--|-------|---------------------------|
| グループ② | テーマ：異文化とマーク | 子ども議員 | 4名(小学4年生1名・5年生2名、中学2年生1名) |
| 共生社会とは | いかなる立場の人もお互いを認め合い、助け合う楽しい社会 | | |
| 意見概要 | 札幌市在住の外国人が日本語で困らないよう、様々な取組みを実施してほしい ・災害時などの緊急情報を外国語で発信 ・外国人が身に着けることのできるコミュニケーションヘルプマークを作成 ・役所や医療機関、金融機関などの多言語対応 | | |

| | | | |
|--------|---|-------|---------------------------------|
| グループ③ | テーマ：ジェンダーレス促進 | 子ども議員 | 5名(小学4年生2名・6年生1名、中学2年生1名・3年生1名) |
| 共生社会とは | 立場が違って同じような権利がある社会 | | |
| 意見概要 | 性別による固定概念や無意識の思い込みが、職業選択の幅を狭めている現状を改善する ・無意識の思い込みにより固定化された性別による役割と逆のことを楽しく体験できるワークショップを実施してほしい | | |

| | | | |
|--------|--|-------|-------------------------------|
| グループ④ | テーマ：少子高齢化対策 | 子ども議員 | 4名(小学5年生2名・6年生1名、 中学3年生1名) |
| 共生社会とは | 一人一人の個性が尊重され、どんな人でも受け入れられて、楽しく生きられる社会 | | |
| 意見概要 | 少子高齢化を改善すべく出産、育児への支援を実施してほしい ・男性の育児休業取得期間を現状より長くする ・命がけて出産する女性を、男性は育児でサポートする | | |

| | | | |
|--------|---|-------|---|
| グループ⑤ | テーマ：バリアフリー | 子ども議員 | 7名(小学4年生2名・5年生1名・ 6年生1名、中学1年生2名・2年 生1名) |
| 共生社会とは | どんな人でも差別されずお互いを理解し合って幸せに生きていく社会 | | |
| 意見概要 | バリアフリーを促進する様々な取組を実施してほしい ・歩車道境界の縁石の段差を解消 ・公共施設などに優先エレベータを設置 | | |

2 男女共同参画審議会（令和6年1月22日）における意見

○骨太の理念と分かりやすい説明が求められると思う。共生社会の実現に向けて理念は必要



3 市民ワークショップの実施について（予定）

(1) 概要

○(仮称)共生社会推進条例の骨子案を市民と共有し、当該骨子案に対する市民意見を把握するとともに、共生社会の実現に向けたまちづくりへの関心を喚起すること及び生活に様々な困難を抱える市民が「共生社会の実現」に関するテーマを題材に共に対話等を行うことを通して、それぞれが抱える状況の共有・理解を促し、心のバリアフリーの更なる推進を図っていくことを目的として、市民を対象としたワークショップを開催予定

(2) ワークショップの内容

- 本ワークショップでは、条例の骨子案の内容紹介のほか、参加者が抱える様々な生活上の困難を相互に知るとともに、共生社会の実現に向けて「市民・事業者・行政がそれぞれ取り組めること」等を考える内容とすることを想定
- 参加者が、本ワークショップをきっかけに、共生社会の実現に向けたまちづくりを自分事として捉え、他者を尊重し、共に支え合う行動に取り組んでいけるような内容とすることを想定

(3) 開催時期

○開催時期は令和6年6月頃、時間は2時間～3時間程度、2回以上の実施を想定

(4) 参加者

○参加者については、障がいのある方や性的マイノリティの方、外国人やアイヌ民族の方など、札幌市内に居住する札幌市民を中心に延べ60名程度を想定

注 上記の内容は現時点でのものであり、今後詳細検討の中で変更となる可能性があります。